

横田英史の 書籍紹介コーナー



生成AIの論点

～学問・ビジネスからカルチャーまで～

喜連川優・編

青弓社 2,640円(税込)

テクノロジーやアプリケーション、法的问题など、11の切り口で生成AIを分析した書。日本学術会議が2023年9月に開催したシンポジウムを加筆、修正の上で書籍化したもの。動きの速い分野に対応するために、シンポジウムから書籍執筆時点までの新展開を加筆で補う。各分野の専門家による、簡にして要を得る解説は役立ち感がある。

大きく3部構成をとる。AI研究者や実業家、漫画家、古典籍研究者、法学研究者などが、第1部ではテクノロジー、第2部では利活用、第3部では法的问题に言及する。分野によって出来不出来があるものの全体に悪くない。

特筆すべきは、利活用のセクションである。画像生成AIとその利活用、生成AIとマンガ制作(制作における生成AIのリアル)、画像生成AIを用いたブランドの創出は、「へ～」と思わせるような具体的な内容が豊富で読み応え十分だ。

tsmc 世界を動かすヒミツ

林宏文、牧高光里・訳

CCCメディアハウス 2,970円(税込)

台湾の経済ジャーナリストに手によるTSMC本。歴史に始まり、企業哲学、企業文化、ガバナンス、経営戦略、世界戦略、夜鷹と呼ばれる研究開発の体制、モリス・チャンをはじめとする経営

陣の人物像などをカバーする。TSMCを30年以上にわたり取材している著者とあって、以前取り上げた「半導体ビジネスの覇者」よりも食い込み度合いで勝る。

本書は台湾の半導体産業の興亡史にもなっている。TSMC台頭をはじめとする台湾の半導体産業の変遷を詳細に紹介しており、頭の整理に役立つ。TSMCとUMCなどとの違いも興味深い。このほか台湾人の労働観、日本や米国、韓国、中国の半導体産業にも言及する。

筆者は「日本を意識して執筆した」と語っているが、確かに日本を多く取り上げているのも特徴となっている。ただし日本の評価が少々甘いのは気になる。

ダークパターン

～人を欺くデザインの手口と対策～

ハリー・ブリナル、高瀬みどり・訳

ビー・エヌ・エヌ 2,860円(税込)

ユーザーの弱みにつけこみ人を欺くユーザーインタフェース「ダークパターン」に関する解説書。ダークパターンとは何か、具体的にはどのようなデザインか、欧米における規制の現状などを紹介する。ダークパターンの現状と法規制をざっと知ることができる。日本語版の監修者が日本の法規制の現状を解説し、原書で欠けている部分を補っている。

ダークパターンは、応用心理学とデザイン、法律の交差するところに存在する。この境界領域にある難しい話題を、筆者

はうまく料理する。議論は構造化され、事例は「いつまで経っても終わらない退会手続き」「すでにチェックされているチェックボックス」など具体的に理解しやすい。例えば搾取的デザインを、知覚的脆弱性を利用する、思い込みを利用する、消耗させプレッシャーをかけるなど、8つのパターンに分類するがいずれも納得性が高い。

宇宙の地政学

倉澤治雄

筑摩書房 1,012円(税込)

月や火星などをターゲットにした、日米欧や中国、ロシア、インドの宇宙開発競争を、日本テレビの記者出身の科学ジャーナリストが手際よくまとめた書。各国の宇宙開発の歴史やロケット技術、資源開発、研究者人脈などについて解説する。先行する米国、猛迫する中国といった構図がよく分かる。

宇宙関連のニュースは散発的に報道されるので全体像が見えづらい。本書は網羅性に優れるので、宇宙開発の状況をざっくり把握するのに役立つ。

本書は大きく6つの章で構成する。月面探査や基地建設など月をめぐる競争、宇宙における米中摩擦、国家の威信をかけた中国の宇宙開発、米国の宇宙ベンチャー、日本の宇宙開発と宇宙安全保障である。特に、月の裏側の土壤サンプルを持ち帰るなど、活発化する中国の宇宙開発とその技術力に多くのページを割いており読み応えがある。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。

川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、

同副編集長、BizIT(現日経クロステック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。

2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、

2016年日経BPソリューションズ代表取締役役に就任。2018年3月退任。

2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DXパートナーズ アドバイザリーパートナー、2024年3月(株)観瀾舎を設立 代表取締役社長、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

